

教科名	家庭科		科目分類	必修
科目名	家庭基礎		単位数	2 単位
学年	2学年	担当者	井上 なな	
教科書 使用副教材	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍) 生活学NAVI(実教出版)			

学期	月	予定時数	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法
一学期	4	中間 12	オリエンテーション 第1章 生涯を見通す 第2章 自分らしい人生をつくる	各自のライフステージを考えさせ、課題解決の糸口を探させる。 家族の変遷を理解させ多様化する事象について考えさせる。 家族にかかわる法律を学習させる。	意欲・技術・工夫・知識理解 出席状況 提出物 授業態度を総合して評価する。
	5				
	6	期末 12	第7章衣生活をつくる	人と衣服のかかわり、衣服素材の種類と特徴、衣生活の管理を学習させる。 被服製作(ショートパンツ)を制作する。	意欲・技術・工夫・知識理解 出席状況 提出物 授業態度 考査成績を総合して評価する。
	7				
二学期	9	中間 14	第6章 食生活をつくる	食文化・栄養・食生活と環境について総合的に学習する。 調理実習を行い、調理技術を会得し、自立した将来の食生活をつくる能力を育てる。	意欲・技術・工夫・知識理解 出席状況 提出物 授業態度を総合して評価する。
	10				
	11	期末 12	第6章 食生活をつくる 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	食生活と環境、食品ロスについて学習する。 住居の機能・賃貸住宅の借り方・平面図の読み方などを学習する。アプリを用いて住宅設計を行う。 経済的な自立を目指して、家計や消費者問題・契約など学習する。	意欲・技術・工夫・知識理解 出席状況 提出物 授業態度 考査成績を総合して評価する。
	12				
三学期	1	学年末 20	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を生きる 第5章 共に生き、共に支える 第10章持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	乳幼児の心身の発達を学習し、保育に必要な基礎的な知識を得る。 高齢者の心身の特徴を学習し、介護保険や認知症について理解を進める。持続可能な社会を目指してライフスタイルを構築する。人生の目標を達成し自分らしい生活が実現できるように生活設計を行う。	意欲・技術・工夫・知識理解 出席状況 提出物 授業態度 考査成績を総合して評価する。
	2				
	3				

教科名	家庭科		科目分類	自由選択
科目名	保育基礎		単位数	2 単位
学年	3学年	担当者	井上 なな	

教科書 使用副教材	保育基礎
--------------	------

学期	月	予定時数	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法
一学期	4	中間 12	オリエンテーション 第1章 子どもの保育 1. 保育の意義 2. 保育の環境 3. 保育の方法	・保育とは何か？保育の心 ・さまざまな保育の場 保育の目的・目標 保育の方法の基本 ・年齢別保育の方法 ・保育所 幼稚園 認定こども園	学年末考査・絵本読み聞かせ・弾き歌い・授業などの参加態度により評価する。
	5				
	6	期末 12	第2章子どもの発達 1 子どもの発達の特性 2 乳幼児の生理的特徴 3 乳幼児の発育と発達 3	・発達とは何か？ ・発達の共通性と個人差 ・発達と環境 ・乳幼児期の発育と発達 生理的特徴 言語 社会性の発達 ・子どもの発達の様子 ・保育実習事前指導	学年末考査・絵本読み聞かせ・弾き歌い・授業などの参加態度により評価する。
	7				
二学期	9	中間 14	保育実習反省会 第3章 子どもの生活 1. 子どもの健康と生活 2. 子どもの食事 3. 子どもの衣服と寝具 4. 子どもの健康と安全 第4章 子どもの福祉 1 保育に見る児童観 2 児童福祉の理念と法規・制度	・夏季休業中の保育実習の反省会を行う。 ・子どもの養護 生活習慣の習得 ・子どもの食事 栄養と食生活 ・子どもの衣服の役割 ・おむつ・子どもの病気の特徴 子どもの看護の方法 ・病気の予防 予防接種 ・子どもの安全 子どもの健康課題 ・児童福祉の歴史・児童福祉法福祉施設	学年末考査・保育実習の出席状況及び日誌などの課題点・弾き歌い 絵本読み聞かせなどの参加態度により評価する。
	10				
	11	期末 12	第5章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義 2 子どもの文化を支える場 3 子どもと遊び 4 子どもの表現活動	・子どもの文化の意義 ・児童文化施設 ・子どもと遊び 遊びの意義 ・子どもの表現活動 造形 言語 音楽	学年末考査・弾き歌い 絵本読み聞かせなどの課題点・授業などの参加態度により評価する。
	12				
三学期	1	学年末 20	保育園実習に行ってみよう 保育技術検定に挑戦してみよう	・児童憲章 ・児童の権利に関する条約について学ぶ。 ・児童福祉法について学ぶ。 ・必要とされる保育サポートについて知る。	年間の取り組みを総合して評価する。
	2				
	3				